



露や世に吾が在ることも摩訶不思議	大畑 善昭
星の数のうちの一人やひたに冷ゆ	辻 美奈子
キューピーの中の空洞秋澄めり	菊地 光子
秋日傘こつそりモネの女となる	千田 百里
地図に無き路地こそ昭和昼の虫	高木 嘉久
鳥渡り齡重ねて見ゆるもの	田所 節子
江の島を鯨と見立て秋の天	宮内とし子
ブルーブラックインク秋へ書く手紙	頓所 友枝
新米の姫と呼ぶるこの重さ	甲州 千草
回転木馬廻つてまはつて風の色	吉田 政江
九月来る象牙の箸の重さもて	林 昭太郎
篠笛の色なき風を吹きにけり	能美昌二郎
月天心舞台装置のやうな街	本池美佐子
花梨の実さみしがり屋で強情で	町山 公孝
シャンソンに序破急のあり秋扇	栗坪 和子
花すすき風は自在のジャズピアノ	鈴木 齊夫
一斉に月に触れたる踊の手	菊川 俊朗
守りには入らぬ気合ひ破蓮	塙 誠一郎
貝の口締めさもなき暮しゑのこ草	平松うさぎ
モーツァルトの音符の風に秋桜	大矢 恒彦
豊年や辛く煮上げし湖の魚	内山 花葉
月光や切箔散れるごとき湾	高久 正
むらさきは人を恋ふ色式部の実	関根 瑤華
裏方にやはり徹せぬ在祭	森村 江風
点線は無言のしるし夜長し	齊藤 實
満月のゆがみなきこと畏るるや	矢野美沙子
漆黒の空に根を張る稲つるび	澤田 英紀
民芸の手業さながら藁こづみ	遠城 健司
少年に端境期あり青蜜柑	小坂 尚子
蓑虫や知らなくてよいこともあり	宮下 桂子

